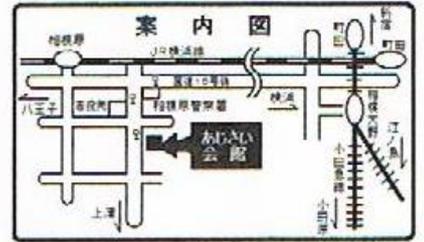




て に て を



発行：相模原災害ボランティアネットワーク ホームページ：www.sagami-portal.com/hp/dnt101144
連絡所：相模原市中央区富士見6丁目1番20号 相模原市社会福祉協議会中央ボランティアセンター
TEL：042（786）6181 FAX：042（786）6182

台風19号により相模原被災 3地区に災害ボランティアセンターを開設

緑区の津久井地区・相模湖地区・藤野地区の3地区に、10月17日から災害ボランティアセンターが開設されました。

相模原市と相模原市社会福祉協議会を中心に、地元の公益社団法人津久井青年会議所、津久井商工会青年部、相模湖商工会青年部、藤野商工会青年部がニーズの把握、ボランティアの受入れや送迎、資材の調達、情報の発信等の運営を行ってきました。被災直後から、地元の自治会等の地域のコミュニティによる土砂の撤去、被災した家財の運び出し等の支援、同じく地域の民生委員・児童委員によるニーズ把握が開始され、また市内、市外・県外から延べ3,400人を超えるボランティアによる活動がありました。（市社協広報より）県内ではかながわ県ネットワーク、海老名、横須賀、葉山の災害ボランティアネットワークの支援がありました。当相模原ネットも個人参加で活動しました。

未曾有の災害

相模原災害ボランティアネットワーク

代表 中村 吉和

元号2台に渡り、「平和」を願う元号となっている。（平成）の「平」、（令和）の「和」、常に世界の平和を願われると天皇陛下もお言葉にしています。世界の世の中には、未だに続く香港の紛争、デモにより日本人ジャーナリストや民間の一五歳が巻き込まれたと痛ましいニュ



津久井 VC にて受付を待つボランティア達

相模原市は12月10日、台風19号による市内の被害総額が約104億8900万円に上ると発表し自然災害では過去最大。土砂崩れや浸水で家屋163棟が被災し、建物被害は約20億9200万円に上った。市は10日、応急対策がおおむね完了したとして、災害対策本部を廃止した。今後は11月に設置した災害復旧・復興推進本部で、被災者の生活再建や地域経済の復興などに取り組む方針。



ースが報じられている。

日本においては、先頃発災した、台風一五号、十九号と続いて関東地方を直撃、千葉県内の被害状況、箱根鉄道の被害状況をニュースで知る様相。十九号においては、未曾有の激甚災害に国は指定した。被害状況を確認すると、人的被害も起きた事象。誰もが経験した事がなく、奔走する状態。一日も早く安心して安全で平和な生活に戻れる事を願わずにはられません。

特別寄稿

相模原市社会福祉協議会福祉推進課田所課長は3つのVCの統括責任者であり、休む時間もないほどの活躍をされました。相模原市社会協議会福祉推進課市民活動係井上主任は、市内藤野出身で同世代が商工会議所青年部で活躍され、顔の見える活動の見本を見させていただきました。一部ですが会員より貴重な体験談をいただきました。併せて掲載します。

災害VCの運営と見えない役割
相模原市社会福祉協議会
福祉推進課 田所課長

災害VCを効率よく運営するためには、VCを構成する各ブースの業務内容・使用機材・書式様式等を、外部状況に合わせて日々更新していくことが求められます。今回は市社協職員の他に、県内社協職員、支援プロジェクト派遣職員、日赤関係者、青年会議所や商工会青年部等がVCの主たる運営者となりましたが、それぞれの豊富な支援経験から様々な意見が寄せられ、実際の運営業務は日々合理化されていきました。ベースとなる流れは確かにありますが、現場の様々な状況に合わせた柔軟な対応が常に求められています。また、被災者を中心に据えて地元自治会や地域の民間団体、行政、ボランティアとの調整など運営マニュアル上には表現できない関係性の調整も求められます。支援者の「私が主役」感と被災者の「すべてやってもらいたい」要望を如何に調整するか？外部団体の様々な要望を如何に処理していくのか？政治的手腕を含めVCの役割は多岐にわたります。

この経験をオール相模原で
相模原市社会福祉協議会
福祉推進課市民活動係 井上主任

災害VCの運営には、「生活課題を受け止め、地域を基盤にした支援」を意識することが必要である。相模原で大規模災害を経験し、多様な主体が協力するためのマッチングの難しさを感じた。支援体制は時間と共に変化していく。

泥かきなど急を要する【緊急期】、生活上の困りごとと向き合う【復旧期】、支えあい体制の構築を目指す【復興期】へと。今回は緑区内で被災地が点在したことも影響してか、同じ地域内で「そんなに大変だと思わなかった」と認識に温度差も感じられた。一方で、私が活動した藤野地区では、発災とほぼ同時に、近所の力で支えあっていた地域が多数存在する。それでは、地域の問題を誰もが“わが事”としてとらえ、受援力や支援力を高めるために何ができるだろう。自治会長の「課題はたくさん。しかし、あらためて感じた地域力を発信したい」という言葉が印象的だった。オール相模原で共有できたとき、本当の復興を迎えられる気がする。

「活動後の反省」 会員Tさんより

土砂だしは入り口を作るところから始まること、水は山から下へ流れる事を忘れずに設計図を頭に描いて作業すること、色々なことを言われても基本方針は変えず、骨組みに沿って意見を取り入れ、臨機応変に対応すること。機材、長靴はボランティアセンターで洗ってもらえることを最初に伝え、被災したお宅の水を使うことがないようにする。人数が多いときは各リーダー集まり作業開始前に作戦会議を行う。また問題点は、まずリーダーに伝え、リーダー同士で意見をまとめる。

「チームリーダーをして」会員Fさんより

初日は裏山が崩れて土砂が家の中に入ってしまったお宅で泥出しと土嚢詰めを行いました。2チーム十人で作業しましたが裏山から水が出て来て裏の作業は中止にしました。翌日は川が氾濫してしまった鳥屋地区のお宅で家も以前鉄工所だった建物にも土砂が入ってしまったお宅で、3チーム17人で泥出し、家財の運び出しを行いました。こちらは道路に隣接していて翌日には重機が来るそうで、土嚢詰めは無く大きな泥山が二つ出来ました。学生さんや若い女性も来てくれて、両日共チームリーダーをしました。誰にも怪我無く安全に作業を終える事が出来ました。

防災とボランティアの集い

6月29日相武台小学校において開催された。

相模原市生協さんはローリングストックの学習と災害時の食事と試食について、相模原市赤十字奉仕団は救命救急法体験を、SSV 会員は家具の転倒防止対策、ブレーカの電源遮断、簡易担架、ブルーシートによるテントの展示とロープワークをしました。参加者は50名でした。写真はHPに掲載されています。

災害ボランティアセンター立ち上げ訓練

梅雨真只中の7月6日(土)、社協15名、SSVN 会員12名の合同によるボランティアセンター立ち上げ訓練を市立体育館にて行った。機材の準備、地図やニーズ貼り出し用のボード設置、担当場所の設営、各種様式の配置など互いに協力し、体育館という広さもあり会議室よりスムーズに行うことが出来た。またボランティアセンターとしての機能がどう働くのかを確認する為、担当別に様式を確認し、ニーズの聞出し(想定ニーズを予め準備)、ボランティアの受入れからマッチング、送り出し、帰着確認など一連の運営をシミュレーション。

拙い部分もあったが、一般会員としては社協との顔繋ぎが出来る絶好の機会であった。

(平田 盛子記)



市総合防災訓練に参加して

2019年度の相模原市総合防災訓練も米軍相模原補給廠返還跡地を会場にして行われた。SSVNの参加は、危機管理局の訓練内容の災害ボランティアセンターの運営訓練と参観者を対象に、ネットの防災と減災関連品の展示を行った。緊急対策課の要請訓練は、災害ボランティアセンターで参加4自治会の訓練参加者の受入れと送り出しを行うことであった。

自治会の参加は1自治会2班で2種目の訓練時間に合わせ、活動報告書を携帯して頂き終

了後にセンターに報告書を提出して頂くことにした。これは、自治会の参加者にセンター運営の内容を理解して頂くもので、受入れ時に訓練内容を記載した活動報告書(ニーズ票)を渡されることに抵抗を感じる方もいましたが、報告書の提出時にはセンター活動を理解されていました。防災と減災関連品の展示は、テントの場所が会場の奥にあって、参観者の入場口から遠くにあったせいか見に来てくれた方は少なかった。次年度は参観者の動線を考慮して展示場所を決めたい。(大石 努記)



津久井養護学校防災訓練学習

9月4日木曜、津久井養護学校より依頼のあった防災学習に参加しました。平日の為に会員数も限られ5名で機材積込(ブルーシートテント1組、家具の転倒防止セット、簡易トイレとテント、備蓄品セット、簡易担架)を経て体育館に向かい9:00開始に備えセッティングを完了した。SSVはブルーシートテントの作り方説明とロープワーク、簡易担架の作り方と乗せ方の体験学習を実施しました。次のコマでは、学校の用意してある折り畳み担架にペットボトル一箱を4人一組で運搬しました。難渋している姿を見つけ、私はその補佐をする事にしました。「担架は広げるのも使うのも初めて」との事で、先生と一緒に4人で20mを一丸となって動き廻るうち、共同作業を愉しみながら学べたように感じられました。

津久井養護学校防災訓練での防災講習実施

9月28日、会員4名で生徒15名、教員25名、地域の方10名を対象にブルーシートによるテント張り、三角巾、簡易担架の講習をした。この地域はハザードマップにも土砂災害区域であり、いざというときには地域の方もこの施設に避難することもある。そのため地域の方も積極的に訓練に参加されていた。

(9月4日小野寺 弘、28日 倉島 記)

避難所体験

初めての避難所体験

先日発災した、台風 15 号と 19 号において、15 号は自宅でやり過ごしたが、19 号の時は、早々と避難場所として指定の中学校が開設されたため、昼の 12 時ごろに避難準備をし、避難場所である学校へと行動を起こした。開設されて間もないためか、避難者は数十名と少なく、広い体育館は、小さな子供たちには絶好の遊び場と化し、初めての体験ゆえ、子供たちの行動に癒されました。何を持参すべきか迷って、ホットカーペットの上敷カーペット（約 3 畳）を一枚持って行き、よかったが飲み物を持参しなかった事が反省点です。（中村代表 記）

初めての避難所設営体験

担当の地域での避難所は地震及び広域避難所だが田名を始め近隣の避難所・公民館が一杯で市より開設指示があった。大雨の中の備蓄倉庫からの備品の搬入は足元が見えず危険で転倒・骨折の危険もあります。体育館も雨漏りが数箇所あり、また、敷きマットと毛布だけではお年寄りには体が痛く寝れるものではありません。体操用のマットを引きましたが、避難所の過酷さがよくわかりました。（桜台小学校避難所運営委員 倉島 記）

中学校“みんないい人”福祉講座

2019 年度 4 月から 12 月までの福祉講座は 3 校が実施しました。6 月は大沢中学校で、11 月は相陽中学校、旭中学校の 3 校です。

大沢中学校はグラウンドが泥濘で、室内で三角巾の取扱いを実施した。相陽中学校と旭中学校は久しぶりの講座でした。

相陽中学校は天候に恵まれ、グラウンドでブルーシートを利用した仮設テント設営訓練を行った。右の写真はテント設営完成後に生徒がテント内でくつろいでいるところ。

旭中学校は、各講座開始前に全体会の講和があり各講座の時間が短縮された。災害ボランティア体験講座も時間内で出来るものとして室内で三角巾の取扱いを行った。両校とも 1 年生で体験内容の違いがありますがどちらも熱心に取り組んでいました。終了 10 分前に、災害時の行動についてのアンケートの答え合わせを行い終了した。（大石 努 記）



2019年度行事実施・予定

（前号より6月～翌3月）

- * 災害ボランティアコーディネーター養成講座
6月15, 16日 南区会場
- * 防災とボランティアの集い 6月29日
- * 災害ボランティアセンター立ち上げ訓練
7月6日

- * 市総合防災訓練 9月1日
- * 津久井養護学校防災体験学習 9月4日
及び宿泊学習 9月28日
- * 会員スキルアップ研修 10月6日
- * 防災力アップ講座 2020年1月14日

どなたでもご参加ください！ 令和元年度「防災力アップ講座」

- 📅 1月14日(火) 午後1時30分～4時30分 📍 相模原市民会館 3階 第1大会議室
- 📍 相模原市にも甚大な被害をもたらした台風第19号。市内外から多くの協力者が集まった「災害ボランティアセンター」の活動報告と、改めて、私たちが日ごろから何をすべきかを考える講座です。
- 👤 講師：高山弘毅 氏（榛東村社会福祉協議会学童保育所係長 / Nukiito代表）
- 👥 100名（申込順） 📍 中央ボランティアセンター
- ☎ 042-786-6181 📠 042-786-6182 📧 svc@sagamiharashishakyo.or.jp
- 🌐 相模原災害ボランティアネットワーク 📍 相模原市

編集後記

避難所設営、災害ボランティア活動、地域での報告と感染症の勉強会、さすがに風邪をひいてしまいました。ますます、寒さが厳しくなります、皆様もお体を大切に。 倉島